



JAMCAニュース

No.61

2009年4月1日

発行
協会事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31

ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3

☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

編集事務局

困難な時代に向かう我々の使命

学校法人ホンダ学園 常務理事
ホンダテクニカルカレッジ関東校長
全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

小栗 篤

アメリカを震源とした世界大不況は、日々その形相を険しくさせています。

「楽しんでお金を稼ごう」という風潮が自壊して

現状に至った原因は様々に語られています。根底にあるのは「楽しんでお金を稼ごう」という人々の、安易な姿勢ではないかと思えます。1の価値しかないものを20にも30にも見せる経済の仕組みに、莫大な数の「安易」がまとわりつき、最後には自壊してしまったのが、現在の困難な状況だと考えます。

人が楽をしたいと思うことは、決して悪ではありません。生活面での利便性から見れば、100年も前の生活に比べて、私たちは実に楽な毎日を送っています。一方、私たちが決して楽をできないことも少なくありません。例えば筋肉を鍛えること、技を身につけること、勉強して能力を高めることなどは、時に相応の苦痛や忍耐を伴います。

「楽」できない領域に
「楽」を求めた結果

現代の一部の風潮は、本来「楽」ができない領域まで「楽」を求めようとする怠惰と、それが可能だと思っている夢物語に彩られています。基礎学力のない若者をほとんど無試験で入学させる大学が少なくありません。その一方、大学に入りさえす



れば、大した勉強をしなくても何とか卒業して就職できると高をくくっている学生や保護者も相当数に上るようです。

今回の景気低迷は、これらの幻想を大きく打ち砕く結果となるでしょう。同時に専門学校の存在意義が見直される好機でもあると思えます。

地道な技術の積み上げ
専門学校ならではの

自動車の整備技術や開発技術の習得は、地道な一つひとつの積み上げの道程に実る果実であり、安易とは対極に位置します。

それゆえに専門学校での就学期間は、はるかに濃密で充実した時間だと言えます。また、技術だけではなく、社会人として巣立つための人間教育の充実、一人ひとりの志望と適性を十分に考慮した親身の就職指導は、大学にはない大きな特徴です。

若者の車への関心喚起
実体感ある教育を貫く

さらに、今後私たちが担う責任の一端として、若者たちに対する自動

車やバイクへの関心の喚起が挙げられます。

世間で報じられているように、若者の車離れは深刻の度を増しています。本校の新入生調査でも、5段階評価で最低レベルの「車やバイクに全く興味がない」学生が3%、その上の「少し興味がある」を合わせると30%に達します。多分、会員校の大半が同様の傾向ではないかと想像します。

確かにこれは由々しき事態です。しかし、この事実と真正面から立ち向かい、車やバイクへの関心を高め、興味のレベルを上げ、自らがそれらに触れる喜びを感じる段階に導くことができるのは、まさに私たちに課せられた新しい使命であると考えます。

安易・軽率に流されやすい現代だからこそ、実体感のある着実な技術習得、一人ひとりと向き合う人間教育、車への関心喚起、これらの実行を使命とする限り、専門学校は大学とはひと味もふた味も違う存在価値を世に示すことができると信じています。

CONTENTS

- | | |
|------|------------------------------|
| 2面 | ロシアの自動車整備士事情 |
| 3面 | 我が校自慢 |
| 4・5面 | 今こそ期待される整備士！
新年車両整備・HB車登場 |
| 6面 | トピックス・アイドルタイム |
| 7面 | 活躍卒業生・地区通信 |
| 8面 | 私の教材活用・編集後記 |